

# BMS コンファレンス 2023 報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 山口信雄

## 1. はじめに（目的等）

BMS コンファレンスは、質量分析によるライフサイエンス研究の発展を推進するとともに、人材の育成を通じて人・社会ひいては地球の未来に貢献することを趣旨として、毎年合宿形式で行われている。今年度から完全対面開催となり、127名の参加があった。

## 2. 期間・場所

期間：令和5年7月18～20日

場所：ホテル&リゾート別府湾

## 3. 参加者等

質量分析研究者、技術者、関連企業質量分析担当者 計127名

## 4. 研修内容

質量分析におけるプロテオーム、メタボローム、および周辺領域に関する技術紹介、研究の最前線紹介と質疑応答、グループディスカッションなどが行われた。また、企業担当者を交えた懇談会が行われた。

## 5. まとめと感想

例年のごとく連日夜12時過ぎまで設定された過密スケジュールの日程であったが、得るべきものが多いコンファレンスとなった。具体的には新技術・新装置の紹介があり、特にプロテオーム解析前処理でこれまで手を焼いていた界面活性剤の除去が簡便に行え、高品質の測定が可能になる手法がかずさDNA研究所より発表された。早速導入すべく、技術書と試薬の購入を行っている。また、次期トリプル四重極型LCMS導入に向け、各社の装置・ソフトウェアについて綿密に聞き取り調査を行い、幾つかの業者には技術セミナーを兼ねた学内プレゼンテーションを依頼した。さらに、現在不調になっている既設装置について解決策をメーカー技術者に伺い、これ以上現地技術者では対応できないところまで原因究明とトラブルシューティングが行えていることも確認できた。

各大学の質量分析技術者とも交流を深めることができ、コアファシリティ事業の進展などについても質問されるなど、オンライン開催では難しい幅広い意見交換を行うことができた。